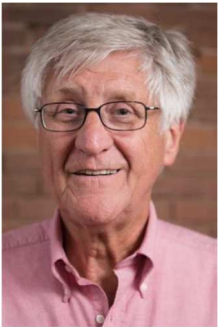


3月4日、スティーブン・リーパー氏(元 広島平和文化センター理事長)がゲスト・スピーカーを手配して下さった講演会(主催:主として鎌倉 YMCA を中心とする諸団体)に友人からお誘いを受けて出席してきました。もうすぐ東日本大震災から5年目を迎えますが、原発事故は原因究明もされず、事故の収束、被災者の補償も進んでいません。放射能の影響がどれくらいあるのか、正確な情報もなく、「ただちに健康に被害はありません」という政府の発表をそのまま信じ続けているかのような現状です。原発の再稼働? 原発技術の輸出? 私はありえないと思います。安倍政権の動きを許せるでしょうか。スピーカーの要旨を紹介します。

アーニー・ガンダーセン氏 元 アメリカの原発企業 Nuclear Energy Service 社の副社長。技術専門家として 45 年の経験。安全規則違反を内部告発事件後、退社。原発関連コンサルタント業。(Fairewinds <http://www.fairewinds.org/>)



福島原発で働いておられる職員に敬意と感謝を捧げる。事故は東電の技術力の完全な失敗であるが、発生時が職員がいた時だったため大惨事を免れた。安全基準の設定のさらに一段上に技術設定を置くべきである。福島の野生動物、山の土、居住地域の各地でサンプルを取り、測定した結果、放射能は高濃度である。放射性物質は循環しているため、除染は不可能。福島の住民の健康被害がひどい。今後の課題は大平

洋への汚染水流入を阻止する方法を確実にする。汚染地区(福島県)への帰還はしてはならない。東電は事実を開示すべき。私も、原発の技術専門家のノウハウをもっと聞くべきだと思いました。

メアリー・オルソン氏 米国原子力情報サービス(NIRS <http://www.nirs.org/>)の生物学者。自身が実験中被曝事故に遭う。



昨年、国連で広島、長崎の原爆被曝(放射線量:20mSv 一回被曝)によるガン発症、死亡率のデータの研究による結果を示された。0~5歳の男児は成人の2.5倍の影響を受け、さらに女兒は7倍の影響を受けている。女性は生殖器官(乳房、子宮)が2か所あるせいか、男性より感受性が高く、被害が常に高い。原爆は1回のみだったが、福島は現在も放射線量が高く、続いていて、その影響は計り知れない。福島では体調不良に苦しむ住民が非常に多い。放射能の身体への影響は特定することができないが、自分自身の体験から、体調不良は放射能によると考えられる。女性、子供は避けてくだ

さい。若い女兒を対象に放射線量の基準値を置かないと、未来のいのちが危うい。今、すべきことは脱原発への運動に参加すること。私も、科学的な調査によるデータをハッキリと開示すべきだと思いました。

スティーブン・リーパー氏 広島女学院大学、長崎大学、京都造形芸術大学客員教授。原爆展を開き、核兵器廃絶を目指す運動家。(Peace News Japan <http://www.peacenewsjapan.com/>)



アメリカと日本を数か月ごとに往来するたびに、日本では福島原発事故、仮設住宅で暮らす人達の報道、関心が少なくなっていることを痛感する。心で感じ、直感を信じて、安全を求めていかなければならない。今後の課題は、エネルギーを中央集権的な供給に頼るのではなく、分散型で、各地で種々のエネルギー開発に取り組むべき。

また、質素で無駄をしない生活をしよう。日本人は身内で会議をして、うまくまとめるのが上手だが、それでは新しい道は絶対、作れない。違う意見を持つ人や、外部の人を加えて話し合いをすることが大事。日本の村社会的風潮をやんわり指摘されたこの提言に聴衆一同、爆笑、納得、大拍手でした。